

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2018.3.1

vol. 37

赤谷の森でわかったこと

「ニホンジカの 低密度管理に向けた取り組み」

赤谷プロジェクト総合事務局

公益財団法人 日本自然保護協会

松井 宏宇

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

染の家 山崎 杜人

● たくみの里「森の恵みと学びの家」から

市毛 亮

イヌワシ赤谷ペア、2年連続繁殖に成功！



2017年、赤谷の森のイヌワシは2年連続で子育てに成功しました。幼鳥は雌で、新治小学校の子どもたちによって「きぼう」と名付けられました。(撮影：上田大志)



今回のテーマ 『鉾塩によるニホンジカ誘引試験地 (小出俣) にて』



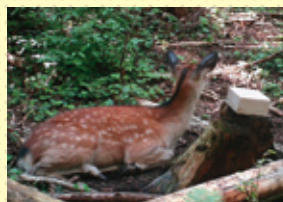
最初に雄ジカ出現



雌5頭の群れ出現



子鹿たちも現れる



子鹿、くつろぐ



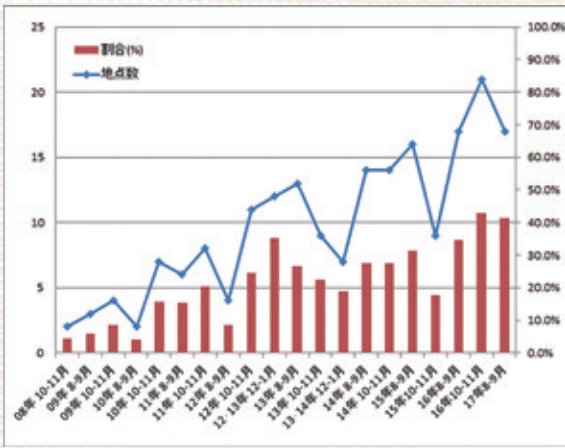
夜、野兎と出会う



ニホンジカの 低密度管理に向けた 取り組み

なぜ低密度管理を 目指すのか

ニホンジカ（以降、シカ）は、全国で分布域を急速に広げています。シカが高密度に生息している地域では、農林業被害に加え、自然林の世代交代を妨げ、土壌の流出を引き起こすなど、生態系や生物多様性の保全上、



赤谷の森のニホンジカの出現地点変遷
(2008~2017年 全51地点※)

※カメラの故障等により調査地点が51地点以下の時期もある。

大きな脅威となっています。シカによる環境への影響は、被害が大きくなってからでは元の状態に回復させることが難しく、また多額の費用が掛かります。そのため、被害が少ない低密度の段階から管理を行うことが重要となっています。一方でこのような取組事例はほとんどないのが現状です。

赤谷の森におけるニホンジカの状況

赤谷の森において、シカは1996年頃から生息が確認されています。赤谷プロジェクトでは、2008年から哺乳類全般を対象にセンサーカメラを用

いた調査を行っており、当初51地点設置したセンサーカメラからシカが確認されたのは2箇所だけでした。その後多少の季節変動はあるものの、最も多く確認された2016年10~11月の調査で確認された地点は21箇所となり、2008年当初と比較し、10・5倍となっています。現時点ではまだ植生の一部で影響が生じ始めているものの、全体として比較的健全な状態を保っています。しかし、シカは年間1・2倍程度、4年で約2倍に増加するともいわれられており、あつという間に増加し、赤谷の森の植生への影響はもちろん、農林業にも深刻な影響が出ることが予想されます。赤谷プロジェクトでは、このような調査の積み重ねを経て、2017年度より実際の捕獲試験を開始しました。



鈹塩（塩のかたまり）を舐めに来たシカ

捕獲試験の結果と今後の取り組みについて

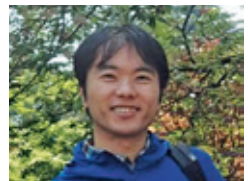
4日間の捕獲試験の中では、捕獲に至りませんでした。センサーカメラからは、赤谷の森におけるシカの出現時間は日没後、夜明け前に多いこと、9月初頭や10月末に多く出現すること、現時点で警戒が高いことなど詳細な行動がわかってきました。

捕獲試験の実施と低密度下のシャープシューティング

今回の捕獲試験は、「シャープシューティング」と呼ばれる技法を用い、試験を実施しました。シカを狙撃した際、狙撃から逃げることでできたシカは、学習によって人や狙撃に対する警戒心が高まることで、通常のシカと比べて捕獲の労力が増え、射撃が一度に全頭狙撃可能な場合のみ狙撃し、逃げ出すシカが発生する状況では捕獲を行わない手法です。さらに今回はシカが好む鈹塩（塩のかたまり）であらかじめシカを誘引しておき、鈹塩を舐めにきたところを撃つ、という方法で実施しました。

町役場をはじめ多くの方に協力を頂き日本初の低密度下のシャープシューティングが実施できました。ありがとうございます。引き続き、猟友会はじめ地元の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

writer....
赤谷プロジェクト総合事務局
公益財団法人
日本自然保護協会
松井 宏宇



今回の捕獲試験からは、低密度であるがゆえにシカとの遭遇が難しいこと、出現時間が夜間に偏っていること（法律上、夜間の発砲は原則禁止）の2つが大きな課題とわかりました。これを踏まえ、今後はより効率的な誘引方法の検討や夜間も捕獲できる方法の検討を実施していく予定です。現在新たな誘引試験をはじめており、今後夜間も動作の可能な罠の試験を検討・実施していく予定です。

広域を移動するニホンジカの管理は、赤谷の森だけでなくより広い範囲で検討する必要があります。利根川の水源の森として登録されたみなかみユネスコエコパークの根幹にかかわります。また赤谷プロジェクトだけで達成できる話ではなく、地域全体での取り組みが必要となります。

低密度管理にはまだまだ課題がありますが、皆さんと一緒に実現に向けて取り組んでいきます。引き続きご協力の程よろしくお願い致します。



地域と繋がる赤谷プロジェクト

自己紹介と普段取り組んでいること（仕事含む）を教えてください。

20歳から家業のこの仕事を始めました。ちょうど去年の今頃から『みなかみ たくみの里』に住んでいます。草木を煮だして染める草木染めで手ぬぐいを作っています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合ったきっかけを教えてください。

高崎での仕事で関係者の方と知り合い、染料になる木はもらえませんかと話していました。

それから『たくみの里 染の家』でイベントをしたり、動物の生態等の話を教えてもらっています。

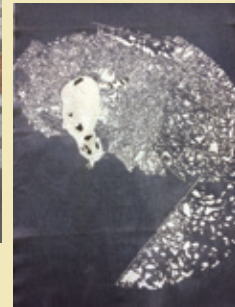
今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

森を歩くイベントをやってほしいです。内容は草木染の染料探し。普段見ている木が真っ黄色に染まったり(例:杉等)、注意深く見ないと見つけることができない染料(例:五倍子)があったりします。採集して染めまでできれば楽しいですね!

あと動物や自然の図案を作りたいです。

豊かな自然に囲まれて生活している姿を型におこして、水や萌

草木屋 染の家 山崎 杜人さん



木、太陽や月の光、夜の真っ暗さ等の表現をしながら作品に仕上げていきたいです。その作品を見てもらった人に赤谷の自然や動物の話をして興味をもってもらいたいです。

工房のPRを一言!お願いします。

なんでも染めます。ご相談ください。

たくみの里 「森の恵みと学びの家」から

市毛 亮



今年度を振り返ると、昨年6月にみなかみ町がユネスコエコパークに登録されたことは大きな出来事の一つです。豊かな自然環境とそこに住む人々が自然と上手に付き合いながら暮らしてきた地域ということが世界的に認められました。

みなかみ町で作られているカスタネットも地域の自然の恵みから生まれています。今年度は、たくみの里でのカスタネットの絵付け体験をはじめ、県内外へも多くのイベントに出展させていただきました。

また、昨年4月には東京のd47MUSEUMで開催された「47こども道具展」にカスタネットを出展・展示いたしました。「47こども道具展」は、子供たち自身が使うおもちゃや衣服等が47都道府県から各1点ずつ集められ、展示・販売される企画展です。

都心部に暮らす方々に実際にカスタネットを手にとっていただくことで、カスタネットの生まれた森のことやそこで活動する赤谷プロジェクトの取り組み等に興味をもってもらうきっかけとなればいいなと思います。

来年度も引き続きよろしく申し上げます。



企画展の様子



展示の様子



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H29.10.25

群馬県教育委員会理科研修講座

群馬県の高校教員に自然林復元試験地等でプロジェクトの生物多様性復元の取組を紹介しました。



H29.11.8

群馬県高校科学部会研修

群馬県の高校実業科の教員にモニタリング調査を体験してもらうなどプロジェクトの取組を紹介しました。



H29.11.9~10

JICA海外研修 (マラウイ)

マラウイからの研修員にプロジェクトの取組などを紹介しました。地域材を活用したカスタネット工房も見学しました。



H29.11.24

地域に根ざした自然保護ワークショップ

筑波大学主催のワークショップでプロジェクトの取組や地域との協働活動を紹介しました。



H29.12.3

沼田ごたたくまつり出展

沼田ごたたくまつりに出展し、プロジェクトの展示やネイチャークラフトを行いました。



H29.12.12

新治小学校6年遠足事後学習

旧三国街道遠足の振り返り学習を行いました。児童と設置した自動撮影カメラに写った動物たちについても学習しました。



H30.2.2

JICA海外研修 (ホンジュラス)

ホンジュラスからの研修員にプロジェクトの取組などを紹介しました。雪のいきもの村を案内しました。



H30.2.3

みなかみ町環境学習発表会

みなかみ町の小学校児童による環境学習発表会に参加し、プロジェクトの展示やネイチャークラフトを行いました。



H30.2.4

赤谷の森自然散策 (冬)

みなかみ町と共催で、いきもの村でスノーシューを履いてトレッキングや雪遊びを満喫しました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は [赤谷森林ふれあい推進センター](#)

[検索](#)



赤谷プロジェクトサポーター募集! (たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・出島

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

(公財)日本自然保護協会

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/>

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事 (事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 魚住 悠哉

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp